

治療と日常生活の注意

対症療法

症状

熱・痛み

解熱鎮痛剤

副作用として胃症状が多いため胃薬を併用することがあります。

咳(せき)

鎮咳剤

呼吸が苦しくなるなどの症状がでたら直ちに主治医に相談してください。

痰(たん)

去痰剤

痰がうすまり一時的に痰の量が増えることがあります。

感染源

細菌感染

マイコプラズマ
クラミジアなど

抗菌薬

菌毎に有効な抗菌薬が異なります。時々発疹などアレルギー症状や胃腸症状が副作用としてあらわれることがあります。

ウイルス感染

抗ウイルス薬

罹患後なるべく早く服用してください。
(インフルエンザのみ)

薬剤

薬剤

日常生活の注意

- 安静、保温、十分な水分摂取。特に高齢者では脱水に注意。



- 指定された時間毎の服用が大切。



- 他の薬を自分の判断でのまない。のみあわせの悪いことがある。



- 良質のタンパク質、ビタミン、ミネラルを十分に摂取。



原因療法